

北海道放送

活動名	HBCアナウンサーによる読み聞かせ
実施期間	令和7年7月～12月
実施回数	会場10回

【事業実施の成果・課題】

2024年度同様、札幌市内の計10校で、それぞれ2人のアナウンサーが読み聞かせを実施しました。事前の練習では中堅のアナウンサーが指導役となり、若手に読みの技術を伝えました。子どもたちは「プロの表現力や声量」を実感してくれた一方、その素直な反応は読み聞かせを担当した若手にとって、さらなる成長を目指すための大きな励みになっています。今後は、この読み聞かせの機会です手にした表現力をナレーション収録など日々の業務に積極的に生かしていくことを目指しています。

また、今年度も10校中3校では読み聞かせに加え、カメラを触ったり中継車に乗ったりする「テレビ体験」を実施しましたが、その対象学年を、授業でメディアについても学ぶ5年生と6年生に絞ったところは昨年度からの変更点です。授業で学んだ内容と我々の企画したテレビ体験とを結びつけることで、放送への理解をより深めてもらえたのではと考えています。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<第2回 伏見小学校 波多野裕太アナウンサー>

1冊目が笑いを誘う絵本だったので、私の担当する2冊目はメッセージ性の強いものにした。会場を去る際に「もう一回自分で読んでみる!」と言ってくれた子どももいた。

<第4回 栄小学校 本間吏成アナウンサー>

子どもたちからは「(主人公が)知らない人にも親切にできることがすごい」という声があった。親切にする大切さを知ってほしいという思いで選書したので、その意図が伝わってうれしい。

<第8回 手稲山口小学校 大竹彩加アナウンサー>

今回は6年生ということで、メッセージ性のある絵本を探して選んだ。涙ぐみながら真剣に聞いてくれている子もいて、この本を選んでよかったと思った。

<第9回 信濃小学校 梶原小春アナウンサー>

時間の経過を表現する際には、自分が思っている以上に「間」を取った方が、聞き手がより物語に没入しやすいことを学んだ。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜子どもたちの感想＞

- ・「間の取り方やセリフ部分がよかった！」「登場人物ごとに声で演じ分けている感じがすごかった」
(10月3日@新琴似西小)
- ・「わたしは本が好きでいろんな本を読んでいます。だけど声に出して読むことはにがてです。でも、HBCのアナウンサーのみなさんの読み聞かせを聞いて、わたしも国語で出てくる音読をがんばろうと思いました。」「読んでくれた本を図書館でかりたいなと思いました。」
(10月15日@八軒西小からのお礼状より抜粋)

＜教諭の感想＞

- ・「読み聞かせ事業の後にあった参観日に子どもたちが保護者へ絵本の読み聞かせを行ったが、練習にも熱が入り、休み時間も元気な読み聞かせの声が聞こえていた。現在はその読み聞かせを他の学年にも広げようと取り組んでいる。」(10月15日@八軒西小)
- ・「素敵な声のアナウンサーの読み聞かせに子どもたちの目はキラキラに輝いていました。また、アナウンサーや番組にまつわる質問にも答えて頂き、キャリア教育にもつながる貴重な時間でした。保育園の年長さんも来て、幼保小連携の事業ともなりました。」(12月1日@あやめ野小 HP より抜粋)